

## 瑞春院(ずいしゅんいん)

臨濟宗相国寺派 塔頭 瑞春院



### 水琴窟も楽しめる「雁の寺」

瑞春院は京都御苑の北側にあり、相国寺の塔頭寺院。烏丸通下立売通を東へ入った相国寺西門から入り最初の寺院。

山門は通常閉ざされている。事前に電話予約をしていたので、脇口から庫裡へ向かう。掃除の行き届いた前庭を見ながら玄関に入る。迎えるのは通称「雁の寺」にふさわしい二羽の雁を描いた屏風。雁の寺の由来は、作家水上勉氏は9歳でここ瑞春院で得度し禅の修行に過ごしている。13歳のある日突然寺を飛び出し各地を遍歴しながら文筆活動が続ける。その後、出版した小説「雁の寺」がベストセラーとなった。この「雁の寺」の小説は瑞春院時代の襖絵をモデルとしたことから瑞春院は別名を「雁の寺」ともいう。今日も雁の襖絵八枚が本堂の雁の間に残っている。

庫裡で、簡単に寺の由来などの説明を聞き本堂へ向かう。本尊は、永享11年(1439)第六代將軍足利義教(よしのり)から寄進されたという阿弥陀三尊佛(阿弥陀如来像を中心に観音菩薩と勢至菩薩の三尊)が祀られている。





庭園は、南庭「雲頂庭」と北庭「雲泉庭」がある。雲頂庭は室町期の禅院風の枯山水庭園。



北庭「雲泉庭」は池泉観賞式庭園



庭園は、南庭「雲頂庭」と北庭「雲泉庭」がある。雲頂庭は室町期の禅院風の枯山水庭園。一方北庭は、庭園研究で文化功労授賞の村岡正氏(文化庁文化保護専門審査員)により作庭された池泉観賞式庭園となっている。また北庭には数寄屋建築の名工諸富厚士氏により表千家の不審庵を模して造られた茶室「久昌庵」がある。その茶室前の外待合の横にある水琴窟(蹲踞)は、小堀遠州の影響を受けた配下が伏見屋敷の庭に造った洞水門(水琴窟)の手法を取り入れて創作されたもの。竹筒に耳を寄せると地底の甕に落ちる水滴音の独特の音色が心を癒してくれる。

書院「雲泉軒」



茶室外待合の横にある水琴窟(蹲踞)

書斎の火灯窓から見る柚木灯籠と檜の木立



玄関に置かれた雁を描いた屏風